

## 「『新しい東北』交流会 in 遠野」に出展しました

岩手大学三陸復興推進機構は、7月26日、遠野市で開催された「『新しい東北』交流会 in 遠野」にブース出展し、岩手大学の復興支援活動を紹介しました。

この交流会は、「新しい東北」官民連携推進協議会（事務局：復興庁）が、「コミュニティの形成」をテーマに、阪神・淡路大震災や新潟県中越地震の復興におけるノウハウや東日本大震災の被災地における課題について共有するとともに、参加者と一緒に「次の一手」を考えるために開催したものです。

岩手大学のブースには、陸前高田市を中心に活動している学生と教員の有志団体「岩大E\_code」が発行している、フリーマガジン『い

いことマップ』や陸前高田商店街協議会とコラボレーションして、世代や出身地も様々な人たちが取材・執筆をしたガイドブック『たかたび』が並びました。

また、三陸復興推進機構生活支援部門地域コミュニティ再建支援班の船戸義和特任研究員もブース前に立ち、大船渡市の災害公営住宅において取り組んだ住民主体の新しいコミュニティづくり・拠点づくりについて、来場者に活動報告書を配付しながら直に説明しました。

岩手大学では、今後も被災地の地域コミュニティの再建や新たな形成に向けて活動を行ってまいります。



コミュニティづくりについて説明する船戸特任研究員(右)



岩手大学のブース前

## 工学研究科佐藤和幸さんが「海の日」論文表彰式優秀賞受賞

7月16日、第7回「海の日」論文表彰式において、岩手大学工学研究科機械システム工学専攻1年佐藤和幸さんが優秀賞を受賞しました。

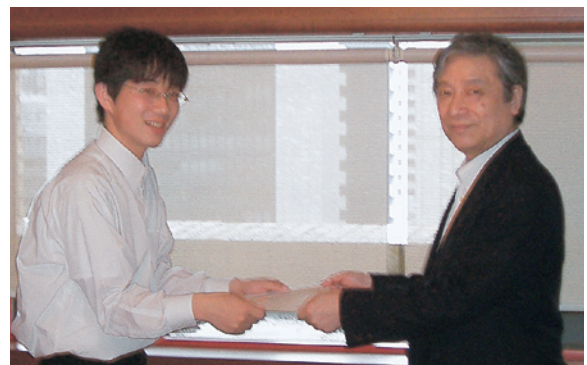
「海の日」論文とは、日本海洋政策学会と日本海事新聞社とが、7月20日の「海の日」（海洋基本法施行記念日）に向け、大学生・大学院生（高等専門学校4、5年生含む）を対象に、海洋基本法が標榜する「新たな海洋立国」の実現に資する論文を公募したものです。

佐藤さんの受賞論文「水中ロボットを通して考える海洋政策」は、国内外に関わらず海底資源が相次いで発見されている今こそ、海底探査に高い技術を持つ我が国の利を生かし、ロボット大国である日本の技術を用いて世界的な海底開発に進出すべきだと考え、これを日本の新たな産業として構築することを提言しています。

佐藤さんは、三陸復興推進機構水産業復興推進部門新素材・加工技術部門（工学部）三好扶准教授の研究室に所属し、水産資源管理用ロボット、水産関連作業支援ロボットとしての活用が見込まれる水中ロボットの開発に取り組んでおり、日頃の努力が実る形となりました。

水中ロボットは将来、養殖いかだの育成状態の調査や水質・底調査等で、三陸の水産業の復興に役立つ可能性があります。

近い将来、佐藤さんが開発したロボットが三陸の海を泳いでいるかもしれません。



賞状を授与される佐藤さん(左)

# 釜石サテライトだより

## ●心の相談ルームの活動について

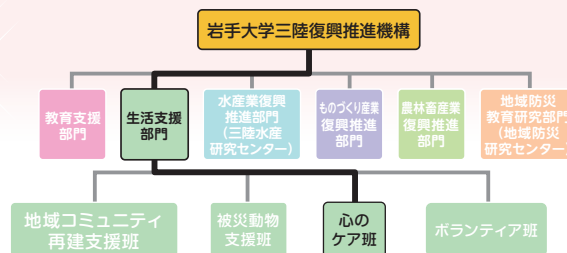
心のケア班・三陸復興推進機構特任准教授 佐々木 誠

心の相談ルームでは、釜石サテライトにスタッフを常駐して研修と相談を柱に活動をしています。他にもニーズの把握のために現地の会議に参加したり、教育委員会への協力も行っています。研修・講演活動はこれまでに109回<sup>1</sup>、約2,700人の方々にお話をさせていただきました。相談活動はこれまでに140件<sup>2</sup>のご相談をいただいています。

最近の沿岸の状況は、公営住宅や復興住宅などの整備が進み、応急仮設住宅からの転居が進んでいます。このことによって、残る・移る・受け入れる方々には様々なストレスがかかると考えられます。そして、それらを支援している団体についても新たな支援や長期に及ぶ支援のため蓄積されたストレスによって反応が現れてくることも考えられます。私たちは、活動開始から“支援者支援”を念頭に活動してきました。それが支援者向けメンタルヘルス・プログラムです。利用する団体のニーズに応じて研修や相談をパックで行うものです。先日は、子ども支援をしているので、発達と発達障がいについて勉強したいというご要望もありまし



子ども支援団体研修「発達と発達障がい」の様子



た。また、被災をされた方々については、今年度からトラウマ介入の心理療法であるEMDR<sup>3</sup>を導入しました。生活環境の変化によるストレスの負荷、あるいは生活の安定によって心の傷を表出できる状態となることで、時間が経ってから現れる心身の反応に備えるためです。沿岸では心理的支援に対する敷居がまだまだ高いということもありますし、相談したくても移動が大変であるなど、十分な支援をうけられる状況とは言えません。市民講座などの活動を通してみなさんに広く心のケアについて知っていただきつつ、活動場所についても検討し、できるだけ利用していただけるように努めて参りたいと思います。

- 1 H24～H27.7
- 2 H25～H27.7 (相談ルームは、H25.3.18 釜石サテライトの移設時に開設)
- 3 EMDR (Eye Movement Desensitization and Reprocessing)

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

### 連絡先 岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト

〒026-0001 岩手県釜石市平田第三地割75-1  
 TEL : 0193-55-5691 (代表) / FAX : 0193-36-1610  
 E-mail : kamaishi@iwate-u.ac.jp  
 URL : <http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/>

## Information

### 公開シンポジウム「東日本大震災からの地域と農業の復興」のお知らせ

岩手大学三陸復興推進機構は農業環境工学関連5学会（農業食料工学会、日本農業気象学会、農業施設学会、生態工学会、農業情報学会）と共催で「東日本大震災からの地域と農業の復興」をテーマに公開シンポジウムを開催いたします。

同公開シンポジウムは、岩手大学三陸復興推進機構の園芸振興班の活動や地域コミュニティ再建支援班の事例を紹介するほか、農業の現場で活躍している講師を招いて、震災からの復興を目指す活動やその課題について議論いたします。

詳細は右記のとおりです。事前申し込みの必要はありませんので、会場まで直接お越しください。

**日時** 平成27年9月16日(水) 15:00～17:30  
**会場** 岩手大学学生センターC棟  
 〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-34

**入場無料**

### プログラム

- 仙台平野沿岸部における水田農業の復興  
大谷 隆二 (農研機構 東北農業研究センター)
- ローテクを生かせ!～身の丈に合った農業振興～  
松嶋 卯月 (岩手大学農学部)
- 放射性物質汚染からの農業復興を目指して～元飯館村職員が見た現実と未来～  
万福 裕造 (国際農林水産業研究センター)
- 主役は誰か?～コミュニティづくりの取り組み～  
船戸 義和 (岩手大学三陸復興推進機構)

コーディネーター：岡田 益己 (岩手大学三陸復興推進機構)

### 岩手大学三陸復興推進機構企画展開催のお知らせ

岩手大学では、被災地自治体の協力を得て、釜石市、久慈市、宮古市、大船渡市に、サテライト・エクステンションセンターを設置し、被災地のニーズを汲み上げながら、「『岩手の復興と再生に』オール岩大パワーを」をスローガンに、様々な震災復興推進活動に取り組んでいます。

震災から4年半を迎えた平成27年10月に、岩手大学三陸復興推進機構の活動を紹介する企画展や関連イベントを開催します。

**日時** 平成27年10月21日(水)～11月4日(水)  
**会場** 岩手大学図書館アザリアギャラリー (1階)  
 〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8

詳細については、ホームページ等で後日ご紹介いたします。



がんちゃん